

いきいきホスピタルにゆーす

2018.3

病院ガーデンに新たな作品が登場します！



筑波大学院人間総合科学研究科の授業「現代アート表現演習」（担当：小野裕子助教）で大学院生がつくった立体作品が3月27日から病院ガーデンに展示されます。今回は院生が制作した作品ということもあり、大きな作品もあります。阿片陽介さんの『踊る親知らず』（写真・左）は、踊っている人と歯を抽象的に表現しました。以前筑波大学附属病院で親知らずを抜いたことが発想の原点で、抜いた親知らずがその後楽しく踊っているといいなと思い制作したそう。他にも2作品展示します。

また同時に学生サークルの園芸クラブが、色とりどりの花を植え、より一層ガーデンが華やかになる予定です。

少しずつ気温が上がり、春の陽気が差し込むこの季節、ぜひ病院ガーデンまで足を運んで、学生の作品と花たちを見に来てください。

廊下の先には・・・



6 東病棟では、学生チーム『アスパラガス』との新たな活動がスタートしました。その名も「どんつきまど」。長い廊下の奥には6 西病棟との扉がありますが、普段開くことはありません。その長い廊下は患者さんのリハビリコーナーとして、歩く練習などに使われていますが、その先に楽しい仕掛けを用意。扉には窓の絵が描かれており、そこにはいろんな色と形をしたマグネットが！自由にマグネットを組み合わせて、みんなで新たな風景をつくっています。

絵？書？



けやき棟とB棟をつなぐ2階渡り廊下の展示の入れ替えを行いました。ここでは、筑波大学書専攻の学生の作品を毎回展示していますが、今回の作品は字と共に魚やサンゴの絵が！線質にもこだわった学生たちの作品をぜひご覧ください。